

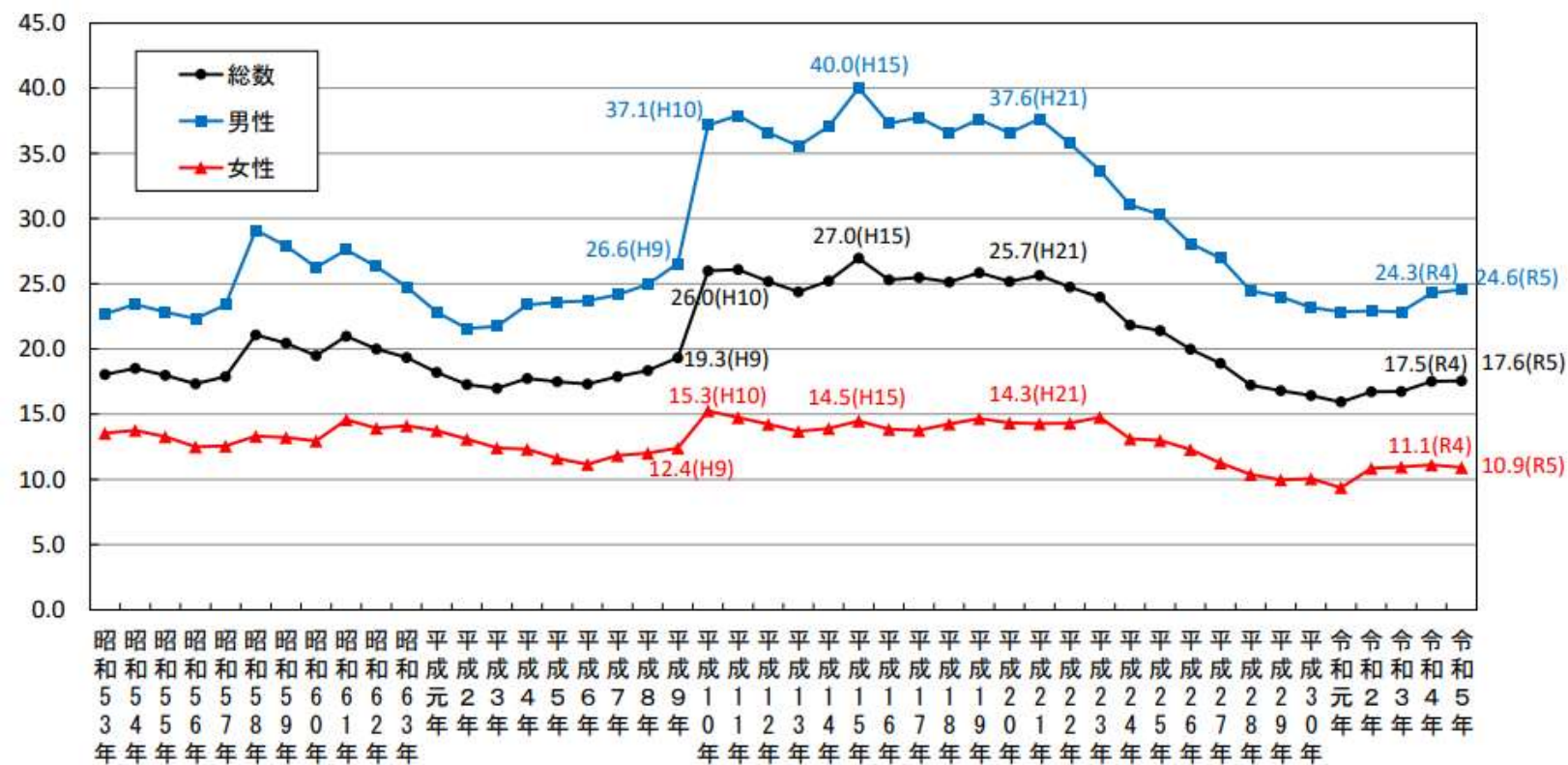
令和7年度 曹洞宗宮城県宗務所布教実践講習会

1. コロナ禍があぶりだした「世間」

2. コロナ後の「世間」と僧侶

1. コロナ禍があぶりだした「世間」

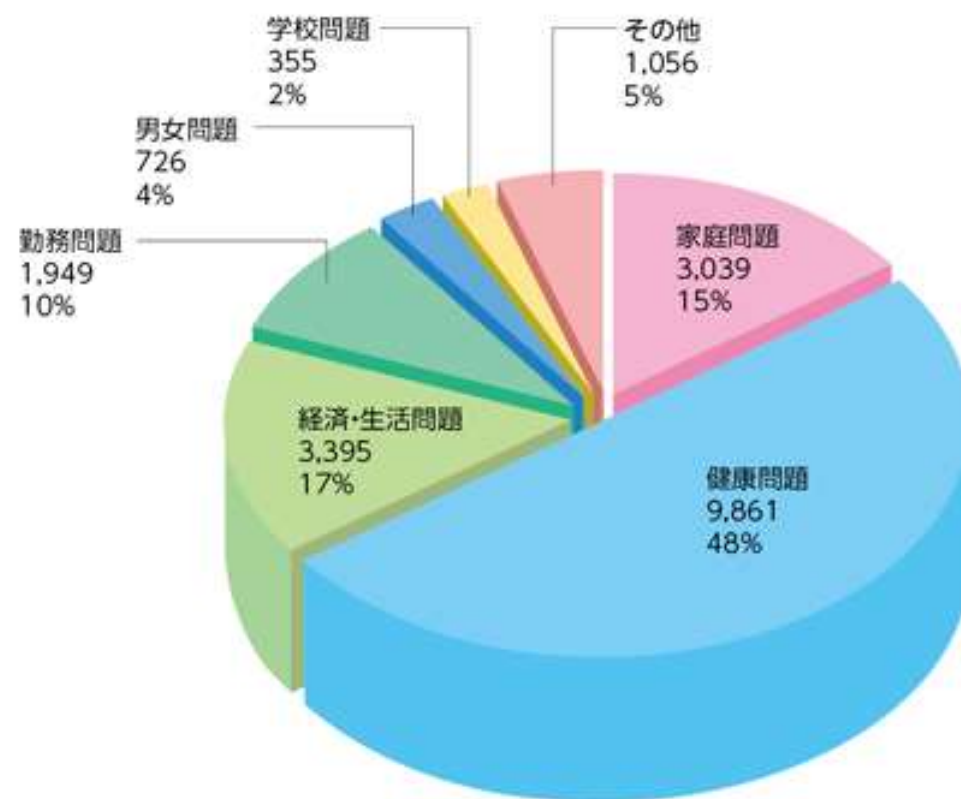
自殺の現状



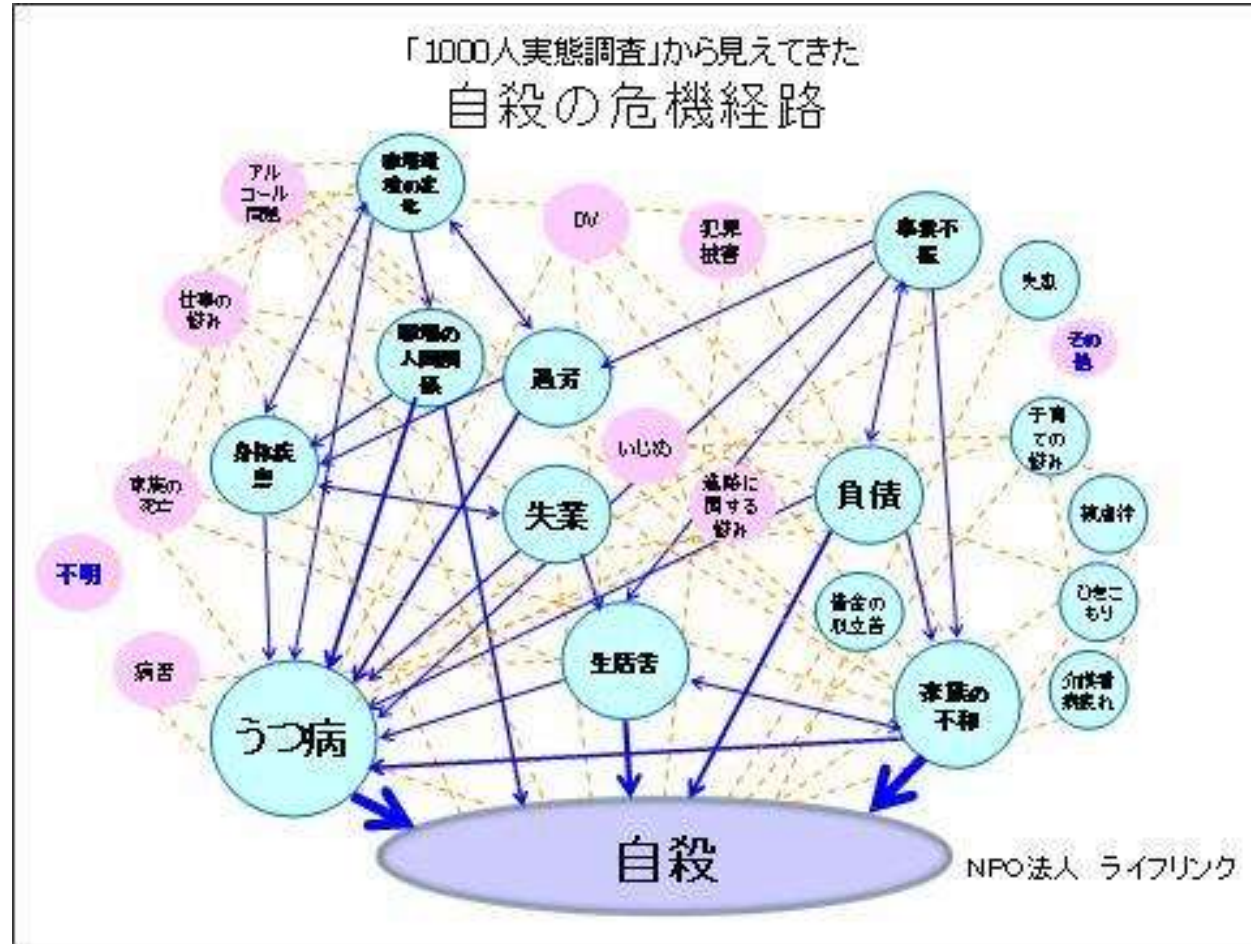
※ 自殺死亡率は、人口10万人当たりの自殺者数である。

資料：警察庁自殺統計原票データ、総務省「人口推計」より厚生労働省作成

自死の動機



自死に至る経路図

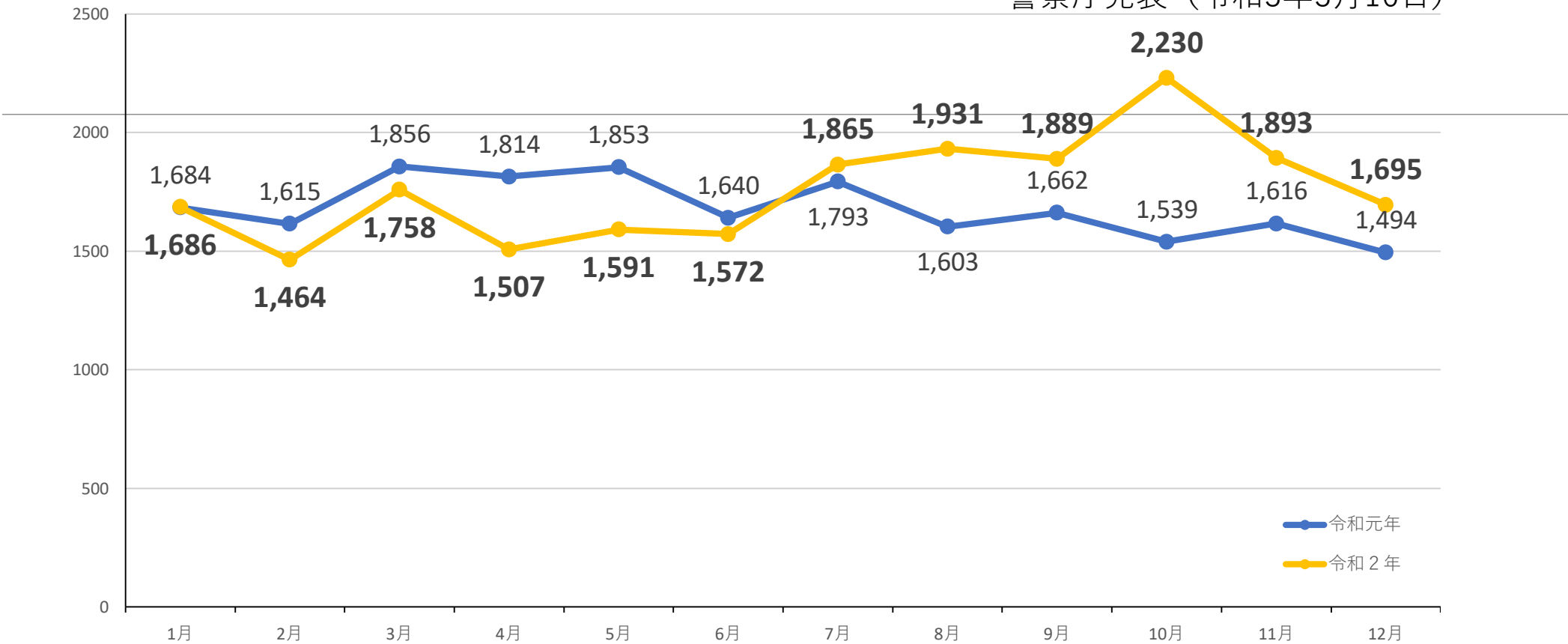


コーヒーサロン「よってたもれ」



全国自殺者数の月別対前年比較

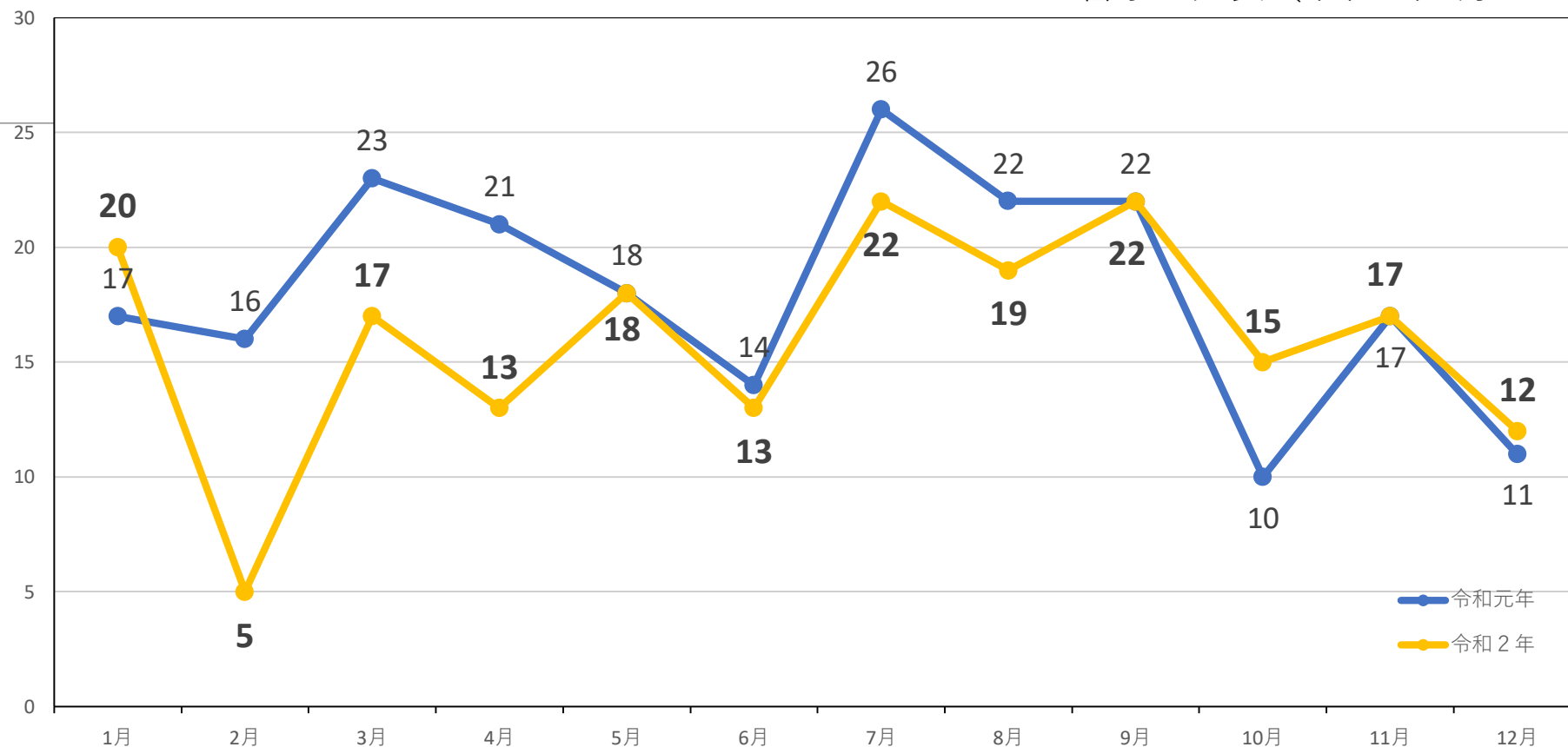
警察庁発表（令和3年3月16日）



月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
令和元年	1,684	1,615	1,856	1,814	1,853	1,640	1,793	1,603	1,662	1,539	1,616	1,494	20,169
令和2年	1,686	1,464	1,758	1,507	1,591	1,572	1,865	1,931	1,889	2,230	1,893	1,695	21,081
増減	+2	-151	-98	-307	-262	-68	+72	+328	+227	+691	+277	+201	+912

秋田県自殺者数の月別対前年比較

警察庁発表（令和3年3月16日）



月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
令和元年	17	16	23	21	18	14	26	22	22	10	17	11	217
令和2年	20	5	17	13	18	13	22	19	22	15	17	12	193
増減	+3	-11	-6	-8	0	-1	-4	-3	0	+5	0	+1	-24

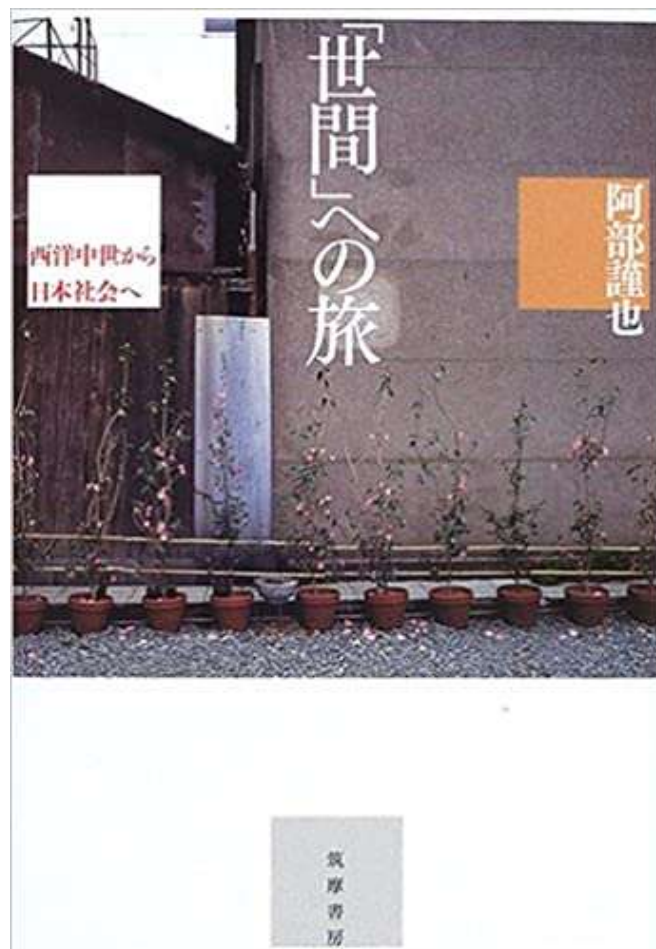
どうして6月まで自死が減少したのか

外出自粛・テレワーク・リモート授業で人のつながりが切れた

会社や学校に行かなくてもよくなった

人の「つながり」が人を追い込んでいたのではないか

阿部謹也 (元一橋大学学長)



「世間」の定義

「自分と利害関係のある人々と将来利害関係を持つであろう人びとの全体の総称」

「基本的には同質的な人間からなり、外国人を含まず、排他的で差別的な性格を持っている。」

（『「世間」への旅』阿部謹也 元一橋大学学長）

「世間」の特徴

- ① 贈与・互酬の関係
- ② 長幼の序
- ③ 共通の時間意識
- ④ 呪術性（宗教性）

（日本世間学会）

鴻上尚史の世間の5つのルール

- ①年上がえらい(年上の人が必要な判断をしている)
- ②「同じ時間を生きる」ことが大切(集団行動を乱すことは許されない)
- ③贈り物が大切(何かをもらったら返さないと礼儀知らず)
- ④仲間外れを作る(仲間はずれは、世間を1つにまとめるためにも大切)
- ⑤ミステリアス(非合理的・非効率な「いつもそうしている」習慣・慣習の存在)

「世間」の掟

世間に迷惑をかけてはいけない

木下光生 (奈良大学教授)



「世間」と自己責任

江戸時代 「村請制」

助け合いは義務 互酬としての「結(ゆい)」

「小割」の義務

年貢未進＝「迷惑」 世間に迷惑をかけてはいない

安丸良夫(一橋大学名誉教授)



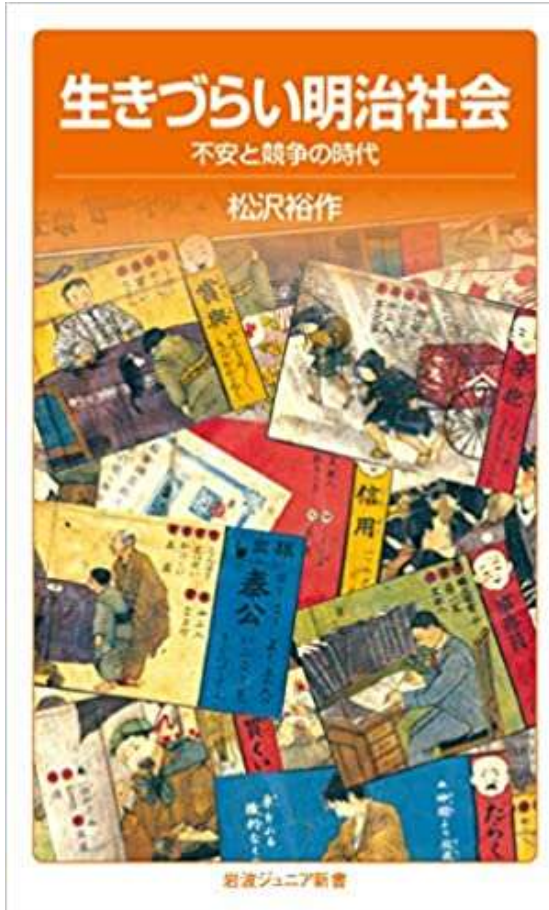
「通俗道徳」のはじまり

石田梅岩 「石門心学」

二宮金次郎(尊徳) 「報徳思想」

困窮するのは自己責任

松沢裕作 (慶応大学教授)



国策となった「通俗道徳」

教育勅語 修身

二宮金次郎(尊徳)

1908(明治41)年 戊申詔書(勤儉詔書)

井手英策 (慶応大学教授 共著)



日本国憲法 第二十七条一項

「すべての国民は、勤労の権利を
有し、義務を負う」

勤労国家日本

貧しいのは自己責任 「働かざるもの食うべからず」

「働き、所得を得て、自ら貯蓄する」ことで将来の不安に備える＝自助

「迷惑」とは働かないで、他者(国家・福祉・地域・家族)の助けで生きること

共助・公助に頼ることは迷惑をかけること

高度経済成長と世間の変化

「結い」の消滅 出稼ぎの本格化



都市への人口集中と農村の過疎



会社という世間

高度経済成長の終焉と不況の時代

1990年代初頭 バブル崩壊

1997年 アジア通貨危機

2000年代初頭 就職氷河期本格化

グローバル経済と新自由主義



「会社世間」の崩壊

「迷惑」の変化

迷惑をかけてはいけない



迷惑をかけられたくない

医療関係者バッシングに見る「世間」

**Japan's beleaguered nurses
face wave of aggressive
"corona-bullying"**

（日本の困窮している看護師は
攻撃的な「コロナいじめ」の波
に直面しています。）



©CBS NEWS

「迷惑をかけられたくない」現代

孤立化の進行

他者の評価が自分を判断する基準 不安定な個人

SNS等のバッシング

無自覚な排他性と制裁を受けることに対する恐怖
同調圧力の高まり

多様性への不寛容

「引きこもり」の増加

2.コロナ後の「世間」と僧侶

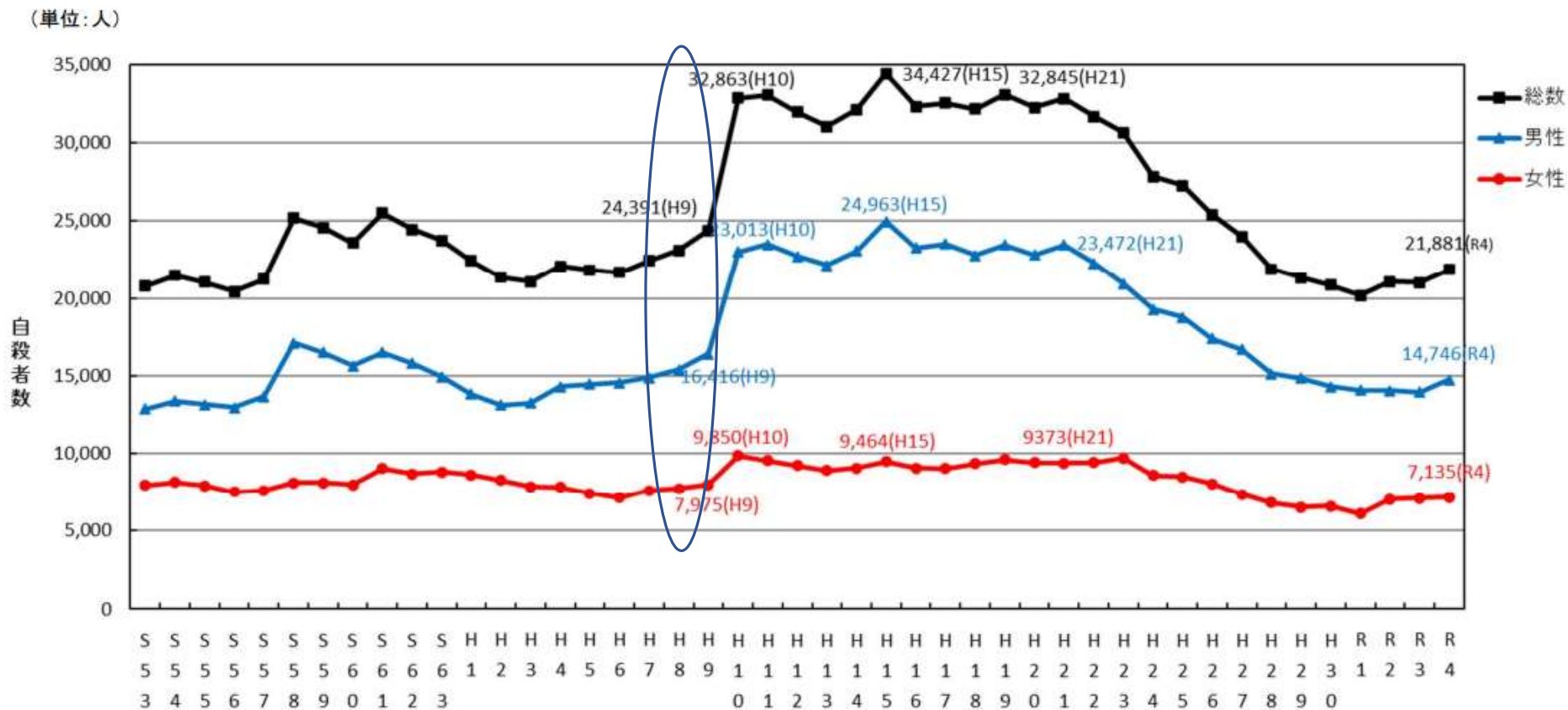
生きぐるしさの背景 これまでのまとめ

- 1.世間 もともと強い「自己責任」によって成り立っていた
- 2.江戸中期 「通俗道徳」が広まった
- 3.明治から戦中 「修身」を通して国民に浸透
- 4.戦後 経済発展と勤労精神の強化
- 5.経済の低迷と厳しくなった世間
- 6.コロナ禍 世間の厳しさをあぶりだした

自殺者数の年次推移

○令和4年の自殺者数は21,881人で、前年に比べ874人(4.2%)増。

○男女別にみると、男性は13年ぶりの増加、女性は3年連続の増加となっている。また、男性の自殺者数は、女性の約2.1倍となっている。



資料: 警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

個人問題から社会問題へ

平成12年 命に向き合う宗教者の会（東海） 根本紹徹

平成19年 自死・自殺に向き合う僧侶の会

関連団体として 自死に向き合う関西僧侶の会

自死に向き合う広島僧侶の会

自死に向き合う九州仏教者の会

平成20年 NPO法人自殺予防ネットワーク風

平成22年 京都自死・自殺相談センター Sotto

曹洞宗の自死遺族対策

平成15年

秋田県曹洞宗青年会「祈りの集い」開始

平成20年

曹洞宗としての「祈りの集い」



石田梅岩

いしだ ばいがん

貞享2年9月15日(1685年10月12日) -

延享元年9月24日(1744年10月29日)

石門心学

「都鄙問答」



鈴木正三

すずき しょうさん 道号:石平老人

天正7年1月10日(1579年2月5日)-

明暦元年6月25日(1655年7月28日)

「四民日用」「万民徳用」



「労働は修行である」

- ・「修行に励め」と言われても日々の業務で忙しく、そのような暇は無い、と語る人々に対して、あなた達の行う仕事は仏教の修行としての意味をもち、それを一心不乱に行っていれば成仏ができると説いた。
- ・利潤を追求すること自体は悪としながらも、成仏するために一心不乱に働いた結果生じた利潤については否定していない。
- ・日本社会では「ブラブラしている」は非難の言葉だが、働かないということは、仏行を行なっていないことだからだ。

山本七平（イダヤ・ペンダサン）

やまもと しちへい

1921年（大正10年）12月18日 -

1991年（平成3年）12月10日）

日本の評論家

山本書店店主



禪と自己責任

百丈懷海

「一日作さざれば、一日食らわず」

道元禪師

典座教訓 「他は是我に非ず さらに何れの時をか待たん」

瑩山禪師

坐禪用心記 「光陰を護惜して、頭燃を救うが如くせよ」

令和5年度管長告諭

慈悲とは限りないいつくしみの心をもって人びとの苦しみを除き安楽に導くことです。この時、私たちはさまざまな立場を認め合いながら、**寛容**になれるのです。

不寛容論 森本あんり

多くの日本人は、寛容は美德だと思っているだろうし、自分のことをどちらかと言えば寛容な人間だと思っているだろう。だがそれは、あくまでも一般論であり、問題が他人事の時だけである。寛容の問いが自分自身に及び、深刻な利害が身の回りにひた寄せてくると、ようやくその不愉快さに思い至るようになる。

「あながき」より



令和 6 年度管長告諭

お釈迦さまは縁起の理法をさとられ、一切を正しく観察される智慧と、他者との和合調和は慈悲によって成ることを、身を以てお示しく下さいました。それは、我利・我欲を離れる私たちの生き方だったのです。

令和 6 年度教化方針 （三）

『修証義』「四大綱領」に基づく菩薩行の実践をすすめます。

私たちは、宗門の教義である『修証義』「四大綱領」に基づき、布施・愛語・利行・同事の四摂法に代表される菩薩行の実践をすすめます。世界中の人びとの幸せと安寧を願い行動することが、自らを菩薩として成長させる大切な修行になること、更にはそれらが自らの深い喜びと安心につながることを伝えていきます。

令和 6 年度教化方針 （四）

人と人とのつながりを大切にして、全ての人びとが救われる関係づくりを目指します。

私たちは、寺院を場とした教化活動にとどまらず、積極的に地域社会に働きかけることで、人びとの悲しみや苦悩に学び、寄り添い、支え合う関係を築けるようつとめます。

生き心地の良い「世間」を作る

僧侶の世間と、世間の中の僧侶

出世間としての僧侶

秋田県心はればれゲートキーパー養成講座

ーふきのとう県民運動の活動からー



平成28年度より毎年18回開催
7年間で1万人以上受講

ご清聴ありがとうございました。

